

丹比真人笠麻呂、紀伊國に往き、勢能山を越

ゆる時に作る歌一首

二八五番

たくひれの かけまく欲しき 妹の名を この勢
能山に かけばいかにあらむ

春日蔵首老、即ち和ふる歌一首

二八六番

宜しなへ 我が背の君が 負ひ来にし この背の
山を 妹とは呼ばじ